



BMX 環太平洋選手権男子チャンピオン Kamakaji

シクリスムエコー No.141 2007年8月号



2007年全日本MTB選手権大会 2



2007年MTBアジア選手権大会 7



UCI 環太平洋 BMX 選手権 8

2007年ジュニア世界選手権大会 10

日本新記録 11

2007年BMX世界選手権大会 11



平成19年度全国高等学校総合体育大会 12



ツール・ド・ラビティビ 14

競技大会結果 15

各日本代表選手団 16

加盟団体事務局住所変更/連盟の動き 16



この広報誌は、「競輪公益資金」の補助を受けました。

<http://keirin.go.jp>

<http://ringring.keirin.go.jp>





2007 年全日本 MTB 選手権大会

ダウンヒルは内嶋・末政、クロスカントリーは竹谷・片山が勝利!



フィニッシュ後の竹谷

男子エリートのスタート直後

XCO-Elite Men

去る7月21～22日、秋田県の田沢湖において、2007年全日本MTB選手権大会が開催された。

21日は時折雨が降る中ダウンヒルが行われ、男子エリートで内嶋が、女子で末政が今年度の選手権者となった。また、ジュニアは三木、マスターは高羽が優勝した。

翌22日は好天に恵まれる中クロスカントリーが行われ、男子エリートは竹谷、女子は片山がそれぞれチャンピオンとなった。またU23では山本、ジュニアでは霜山、マスターでは三上がそれぞれ優勝した。



独走する竹谷



フィニッシュする竹谷



女子のスタート

XCO-Women

【競技結果】

2007年全日本MTB選手権大会
(2007/07/20-22 秋田・田沢湖)

XCO男子11-ト (39km)

- 1 竹谷 賢二 千葉 Specialized 2:13:28.00
- 2 山本 和弘 東京 キャノンボール 2:18:34.27
- 3 千田 尚孝 愛知 2:19:59.43
- 4 江下健太郎 長野 MX 2:23:32.76
- 5 松本 駿 長野 TREK 2:26:07.03
- 6 門田 基志 愛媛 GIANT 2:26:22.53
- 7 辻浦 圭一 長野 アンカー 2:27:51.99
- 8 小笠原崇裕 長野 OGA 2:29:22.69
- 9 後藤 清作 島根 GIANT 2:31:17.74
- 10 鈴木 雷太 長野 アンカー 2:33:01.36

XCO女子11-ト (26km)

- 1 片山 梨絵 神奈川 TREK 1:47:29.84
- 2 矢沢みつみ 山梨 SY-Nak 1:47:56.79
- 3 中込由香里 長野 SY-Nak 1:48:19.19
- 4 田近 郁美 岐阜 GodHill 1:56:56.70
- 5 深井 薫 大阪 BMC 2:02:46.40
- 6 山本 佳苗 岡山 BMC 2:10:34.70
- 7 出町 有希 鳥取 2:18:04.90
- 8 光田 真基 三重 KHS Japan -1lap
- 9 丸山八智代 長野 VOODOO -2laps
- 10 山本 萌 北海道 ダンガリー Jr -2laps

フィニッシュ後の片山



独走する片山



U23 のスタート



XCO-U23



単独フィニッシュした山本



日本航空

空で逢いましょう。

Dream Skyward.

JAL

ご予約・お問い合わせ

www.jal.co.jp

国内線 ☎ 0120-25-5971
(営業時間 6:30~22:00/年中無休)

国際線 ☎ 0120-25-5931
(営業時間 8:00~21:00/年中無休)



XCO-Junior



ジュニアの勝者 霜山



XCO-Master



マスターの勝者 三上

【競技結果】

XCO 男子U23 (32.5km)

- 1 山本 幸平 長野 アンカー 1:49:05.42
- 2 小野寺 健 京都 Subaru 1:49:20.90
- 3 竹之内 悠 京都 TREK 2:00:28.75
- 4 平野 星矢 新潟 アウトドア校2:03:29.32
- 5 伊澤 優大 滋賀 BeeClub2:11:20.06
- 6 鈴木 禄徳 千葉 学習院大2:13:42.82
- 7 日野林昂志郎 愛媛 BSC 2:18:15.70
- 8 今井 雅士 岡山 キャノンボール -1lap
- 9 奥村 翔 東京 over-do -1lap
- 10 高橋 勇希 東京 カガワジム -2laps

XCO 男子ジュニア (26km)

- 1 霜山 誠一 福島 1:45:13.66
- 2 中山 和也 長野 スコ 1:46:14.22
- 3 横澤 太 愛知 Tsukude 1:46:51.60
- 4 野田 拓司 佐賀 シン 1:47:27.33
- 5 合田 啓祐 香川 クース 1:53:16.26
- 6 西岡 亮祐 愛媛 BSC 1:57:16.63
- 7 丸田 直 東京 法政二高1:57:50.20
- 8 井本 朋慶 熊本 八代農業2:01:07.80
- 9 山本 兆 北海道 ダンガリー 2:01:22.80
- 10 多治見智高 東京 2:01:43.30

XCO 男子マスター (26km)

- 1 三上 和志 埼玉 3UP 1:42:38.27
- 2 光山 明 茨城 FORZA 1:42:56.69
- 3 澤田 泰征 大阪 VOLCA 1:43:06.32
- 4 村田 隆 長野 快 1:45:47.00
- 5 宮本 光司 千葉 FLEX 1:46:27.71
- 6 赤塚 剛司 三重 Mt,Hase 1:46:53.15
- 7 町田 陽一 栃木 Tea&Shu1:47:23.43
- 8 福田 宏夫 栃木 Tea&Shu1:48:14.93
- 9 村山 一成 長野 サイクルマイト1:48:19.00
- 10 國吉 正紀 石川 Bridler 1:48:29.96



男子エリートの勝者 内嶋



女子エリートの勝者 未政

【競技結果】

DHI 男子1.5km

- 1 内嶋 亮 東京 G-Cross 2:20.906
- 2 安達 靖 愛知 Ikuzawa 2:22.093
- 3 井手川直樹 埼玉 G-Cross 2:23.391
- 4 向原 健司 大阪 KHS 2:24.721
- 5 和田 良平 神奈川 Ringoroad 2:25.825
- 6 竹本 将史 東京 AKI Fact. 2:26.496
- 7 伊藤 良高 愛知 NCFR 2:26.766
- 8 大島 礼治 兵庫 basssound 2:27.235
- 9 塚本 岳 長野 MX 2:27.451
- 10 丸山 弘起 長野 TECH-IN 2:27.659

DHI 女子1.5km

- 1 未政 実緒 兵庫 Funfancy 2:47.841
- 2 佐藤 百江 東京 WORKS-1 3:06.565
- 3 中川ヒロカ 大阪 Commencal 3:14.657
- 4 大西 雅美 兵庫 YRS 3:16.326
- 5 尾芦 資子 東京 風魔吉祥寺 3:17.018
- 6 池田 恭子 東京 Cannondale 3:22.082
- 7 飯塚 朋子 大阪 ATOMIC 3:22.666
- 8 菅原 亮香 岩手 AKI Fact. 3:59.491
- 9 服部 良子 神奈川 服部良子 4:04.700
- 10 富田 敬子 奈良 ZONE/R 4:35.128

DHI 男子ジュニア(1.5km)

- 1 三木 洋介 埼玉 YOHO 材 2:52.960
- 2 門脇 祥 新潟 SEO 3:08.824
- 3 黒沢 大介 東京 St'Paul's 3:12.658

DHI 男子マスター(1.5km)

- 1 高羽英士朗 愛知 MOVE 2:24.061
- 2 山崎 勉 栃木 Charge 2:24.144
- 3 三山 孝幸 石川 FRS 2:26.056
- 4 宮本 光司 千葉 FLEX 2:27.716
- 5 山本 明 兵庫 YRS 2:28.662
- 6 望月 克彦 静岡 KIDS 2:29.913
- 7 有村 俊彦 神奈川 重力技研 2:30.663
- 8 小川信一郎 新潟 D+Trash 2:31.831
- 9 佐藤 守 宮城 SEKI 2:32.080
- 10 佐藤 努 東京 2:32.214



ジュニアの勝者 三木



マスターの勝者 高羽

2007年 MTB アジア選手権大会

末政7度目5連覇! 井手川初優勝!

今年のMTBアジア選手権は中国・江蘇で行われた。当初はレバノンで開催される予定であったが、国内情勢により急きょ中国へ変更になった。

アジア選手権は毎年開催されているが、今年の大会は北京オリンピック出場枠(クロスカントリー)のかかった大変重要なレースであった。出場枠を獲得するためには、①国別ランキングで上位にランクされるか、②各大陸選手権で男子は上位2カ国、女子は上位1カ国に入るかのどちらかであるが、日本は国別ランキングが低い②の大陸枠で獲得する必要があった。

クロスカントリー (XCO)

XCOは一般的に最終日(日曜日)に行われることが多い。しかしながら今大会では金曜日(大会受付から2日後)にエリート男女決勝となっており、十分な練習時間が取れない日程であった。日中の最高気温は40度近くまで上昇し、じっとしているだけでも体力が奪われていくほどであった。

コースはほとんどがシングルトラックで構成されており、登りも下りも急斜面が多く、場合によっては押さなければクリアできないセクションが多数存在した。1周の距離は5.5kmであり、女子は3周、男子は4周で競われた。

女子XCOは優勝した国に1名の枠がもたらされる。ただし前述①の国別ランキングで枠を獲得している場合はそちらが優先され、①の条件を満たしていない国が繰り上げとなる。中国はUCIの国別ランキングが2位であり、そちらで出場枠を獲得することがほぼ間違いないと予想された。すなわち、中国の次の順位でゴールできれば枠を獲得できるため、それを目標に展開することとした。

女子XCOは10時にスタートした。スタートと同時に中国の選手がトップに立つ。日本もそれに続くが、中国選手が坂をアウターで登っていくのに対し、日本選手はセンターで登るのがやっとなのである。1~3位中国、4~6位日本という順位のまま淡々と周回を重ね、そのままの順位でゴールした。これによりオリンピック枠の獲得がほぼ決定的となった(正式決定は2007年末の国別ランキング発表後)。

男子XCOはどの参加国も国別ランキングが低いと、上位2カ国に入るための熾烈な争いが繰り広げられた。男子XCOは14時にスタートした。先頭は中国3名と香港1名、次いでカザフスタン、

小野寺、山本、カザフスタン、竹谷…と大集団のまま最初のシングルトラックに突入した。しかしエースを逃がしたい国はシングルトラックで蛇行、押して歩く、不必要にブレーキをかける等の作戦を展開した。この時点で大多数の選手が後方に取り残され、実質的にレースからは取り残されてしまった。

なんとか先頭集団に入った小野寺と山本に全てを託すが、パワーに勝る中国、香港の選手にじりじりと差を広げられていった。中盤になって香港がペースダウンしはじめたが、暑さのため日本もペースが上がらなかった。それでも小野寺は1秒でも差を縮めようと最後の下り坂をDH選手並みのスピードで攻めた。最後のコーナーで転倒を喫し、満身創痍でゴールするもわずか2分届かなかった。結果、中国と香港が上位2カ国となり、アジア選でのオリンピック枠獲得は実現しなかった(2007年末の国別ランキングで枠獲得の可能性は残されている)。

ダウンヒル(DHI)

DHIは井手川、永田、末政がエントリーした。決勝前日の予選では井手川が1位、永田が2位であった。女子も予選では末政が1位となり、男女アベック優勝を予想させた。ところが決勝当日の練習走行で井手川は足首の靭帯を切ってしまった。しかし集中力を切らさず、ハンドレを負いながらも0.3秒差で辛勝した。予選2位だった永田は攻めきれず4位に終わった。末政は優勝を確実にするため抑えて走ったが、1秒差で優勝した。

総括

今回のアジア選では中国のみならず、アジア各国の強化が進んでいる現状を目の当たりにした。XCOにおいて日本はもはや第1国ではなく、セカンドグループすら危ういのが現状である。優勝した中国選手はまだ20歳であり、次世代が順調に育っていることが容易に想像できる。DHIにおいても圧倒的大差で勝つことは難しくなってきたおり、いつ王座を奪われてもおかしくない状況である。

このような日本チームの危機的兆候は2005年のアジア選手権から見られていたが、今回の結果はそれを有効に生かせなかった反省材料として真摯に受け止めなければならない。この状況を打破するためには、関係者全員が世界で戦うために何をすべきかを考え、実践していかなければならない。

(西井 匠)



【競技結果】

2007年 MTB アジア選手権大会
(2007/08/02-06 中国・江蘇)

XCO 男子エリート (22km)

1	Ji Jianhua	CHN	1:40:33.115
2	ZHANG Haitao	CHN	1:41:47.362
3	CHAN Chun Hing	HKG	1:43:15.527
5	小野寺 健	JPN	1:45:58.393
6	竹谷 賢二	JPN	1:46:39.399
7	山本 幸平	JPN	1:49:23.290
11	野口 忍	JPN	1:57:50.777
33	辻浦 圭一	JPN	奈良 -2laps
	白石 真悟	JPN	大阪 DNF

XCO 女子エリート (16.5km)

1	LIU Ying	CHN	1:34:44.386
2	REN Chengyuan	CHN	1:37:30.558
3	WANG Jingjing	CHN	1:39:31.403
4	片山 梨絵	JPN	神奈川 1:44:58.887
5	矢沢みつみ	JPN	山梨 1:54:37.390
6	真下 正美	JPN	神奈川 2:02:41.230

DHI 男子エリート

1	井手川直樹	JPN	広島 1:53.034
2	ARIYO SEJATI Popo	INA	1:53.382
3	TSUI King Man	HKG	1:54.361



4	永田 隼也	JPN	神奈川 1:55.400
---	-------	-----	--------------

DHI 女子エリート

1	末政 実緒	JPN	兵庫 2:11.439
2	ABDULKAREE Sattayanun	THA	2:12.761
3	PRADUPYARD Ausanee	THA	2:16.146



UCI 環太平洋 BMX 選手権



女子エリートのスタート

戦国時代の名将上杉謙信の城下町としても有名な新潟県上越市で「2007年 UCI 環太平洋 BMX 選手権 上越日本大会」が8月11日に開催され、UCIポイントのかかったこの大会に海外から約30名の選手が参加した。日本では、1997年に東京・稲城市で初開催、2001年5月に上越市、2005年9月に茨城県日立市と続き、今回4度目の日本開催となった。

男子エリートは、外国勢が圧倒し、日本選手では阪本章史（大阪）が6位と健闘した。女子エリートは三輪郁佳（広島）が惜しくもニュージーランドの Sarah Walker 選手に及ばず2位となった。男子ジュニアでは古性優作（大阪）が3位に入った。また、チャレンジクラスでは5歳から40歳以上のクラスまで13クラスが行われ、真夏の太陽のもと熱戦が繰り広げられた。

本大会開催にあたり新潟県上越市にご支援、ご協力を賜り深く感謝申し上げますとともに、7月の新潟県中越沖地震で震災に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。そして一日も早い復興を願っております。



男子エリートの勝者 Kakakaji



男子ジュニア
右が勝者の Willoughby



レース後のサイン会



男子エリート日本人最高位 阪本



前夜祭

【競技結果】

**UCI 環太平洋 BMX 選手権
(2007/08/11 新潟・上越)**

男子リト

- 1 Kamakaji AUS
- 2 Marc Willers NZL
- 3 Stiven Cisa USA



- 6 阪本 章史 JPN 大阪

女子リト

- 1 SarahWalker NZL
- 2 三輪 郁佳 JPN 広島
- 3 Lany Nyhaug CAN
- 4 飯端 美樹 JPN 大阪
- 6 佐藤 詩 JPN 大阪

男子ジュニア

- 1 Sam Willoughby AUS
- 2 Denzel Stain USA
- 3 古性 優作 JPN 大阪
- 4 松下 翼 JPN 神奈川
- 5 三瓶 将廣 JPN 神奈川
- 6 高山 祐次郎 JPN 埼玉



未永くお付き合いいただくために。



シマノ製品をご愛用いただきまして

ありがとうございます。

シマノではユーザーの皆様へ、当社製品と

未永くお付き合いいただけるよう、

各種補修用パーツをご用意しております。

- 製品についている取扱い説明書をご使用前に必ずお読みください。
- 機能保証のために分解できないパーツもあります。
- お近くの自転車店でご相談下さい。別途送料がかかる場合があります。
- 在庫状況により、品切れの場合もあります。予めご了承下さい。

SHIMANO

www.shimano.com

XBC001-A

2007年ジュニア世界選手権大会

日本新記録が続出!!



今年のジュニア世界選手権は、メキシコのアグアスカリエンテスでトラックレースは8月4日から7日まで、ロードレースが8月9日から12日に行われた。ジュニアカテゴリーは、2007年中に17、18歳になる男女で、24の国と地域から176名が参加した。

トラックレース

トラックレースの会場は、アグアスカリエンテス自転車競技場・屋外コンクリート走路・周長333.mで行われた。結果は男子ケイリンで坂本貴史の5位が最高位。メダルには手が届かなかった(8位)が、男子チームスプリントで雨谷・深谷・坂本が1分02秒929のタイムで4年ぶりにジュニア日本記録を更新。



また、男子1kmタイムトライアルでは深谷が1分05秒28のタイムで13年ぶりにジュニア日本新記録を更新するなど活躍が目立った。(折本)



深谷のスタート

より始まり8番目に柁原がスタートした。前半は、登り坂でペースが上がらず苦しみながら折り返し地点に到達した。後半は、下り坂なのでペースをつかむも道路状態が悪く思うようにタイムが上がらず26位に終わった。針谷は、20番目にスタートし、前半の登りは頑張ったが、後半の下りは思ったほどスピードが上がらず25位に終わった。今回ジュニア女子の世界とのレベルの差が広がっていると感じた。男子は、嵐田が22番目にスタートし我慢強く走ったが、ギア倍をかけて踏むことが出来ず他の国との差が有りすぎた。39位でゴールした。

個人ロードレースは8月12日に行われ、天気は快晴で暑く、10時に女子のロードレース80.35kmがスタートした。柁原が2周目で遅れだし徐々に離され、最後尾を走りながらも最後まで頑張りゴールした。針谷は中盤までトップグループで走っていたが、後半は第3グループとなり39位でゴールした。男子は133.6kmで2時にスタート。気温も上がり暑いコンディションの中レースが始まった。嵐田もラスト2周までトップグループに付いていたが、最終で第3グループとなり50位に終わった。前は102位だったが、今回は前回以上に頑張った。(福田)



ロードレース

ロードレースはトラックレースにも出場した嵐田義明、針谷千紗子、柁原彩の3選手が出場した。個人タイムトライアルは8月9日におこなわれ、女子が11時15分

【競技結果】

2007年ジュニア世界選手権大会
(2007/08/05-12 メキシコ・アグアスカリエンテス)

男子スプリント

1	JOLLET Thierry	FRA	
2	LYTE Christian	GBR	
3	MITCHELL Peter	GBR	
9	雨谷 一樹	JPN	栃木 1/8F 敗退
12	深谷 知広	JPN	愛知 1/8F 敗退
18	坂本 貴史	JPN	青森 1回戦敗退

男子1kmタイムトライアル

1	PALMER Thomas	AUS	1:02.366
2	DAWKINS Edward	NZL	1:02.499
3	RACKWITZ Daniel	GER	1:03.308
14	深谷 知広	JPN	愛知 1:05.238

男子ケイリン

1	LYTE Christian	GBR	
2	DANIELL David	GBR	
3	PELUCCHI Matteo	ITA	
5	坂本 貴史	JPN	青森
11	雨谷 一樹	JPN	栃木

男子スクラッチ (10km)

1	MEYER Travis	AUS	
2	KASPERKIEWICZ Piotr	POL	
3	PULGAR Angel	VEN	
7	嵐田 義明	JPN	埼玉

男子ポイントレース (24km)

1	NOVIKOV Nikita	RUS	37p
2	KUIPER Bouke	NED	31p
3	CHRISTIE Jason	NZL	29p
19	嵐田 義明	JPN	埼玉 -15p

男子ホムロム

1	O'SHEA Glenn	AUS	
2	SIMPSON Myron	NZL	
3	CALLES Maurice	GER	
	脇本 雄太	JPN	福井 DNF

男子チームスプリント

1	GBR	1:00.940
2	FRA	1:01.095
3	AUS	1:01.435
8	日本 (雨谷・深谷・坂本)	1:02.929

女子スクラッチ (7.5km)

1	GARCIA Iraida	CUB	
2	GUARISCHI Barbara	ITA	
3	MOSBACH Anna	GER	
15	柁原 彩	JPN	熊本

2km 個人追抜競走

1	TOMIC Josephine	AUS	2:23.184
2	KENT Sarah	AUS	2:30.106
3	ELLIS Lauren	NZL	2:28.775
15	柁原 彩	JPN	熊本 2:41.209

女子ポイントレース (20km)

1	TOMIC Josephine	AUS	28p
2	RIOS Jenny	MEX	13p
3	GARCIA Iraida	CUB	12p
11	針谷千紗子	JPN	栃木 -20p

男子個人ロードタイムトライアル (27.9km)

1	PHINNEY Taylor	USA	37:28.01
2	DEGENKOLB John	GER	37:52.93
3	NOVIKOV Nikita	RUS	37:58.86
39	嵐田 義明	JPN	埼玉 41:25.71

女子個人ロードタイムトライアル (13.9km)

1	TOMIC Josephine	AUS	20:38.15
2	KONONENKO Valeriya	UKR	21:01.28
3	HUTCHINSON Jerika	USA	21:04.61
25	針谷千紗子	JPN 栃木	24:29.97
26	柁原 彩	JPN 熊本	24:51.64

男子個人ロードレース (133.6km)

1	ULISSI Diego	ITA	3:07:05
2	RATTO Daniele	ITA	3:07:05
3	FAVILLI Elia	ITA	3:07:08
50	嵐田 義明	JPN 埼玉	3:08:06

女子個人ロードレース (80.35km)

1	PATUZZO Eleonora	ITA	2:17:40
2	TAYLOR Cherise	RSA	2:17:40
3	SCANDOLARA Valentina	ITA	2:17:40
37	針谷千紗子	JPN 栃木	2:26:26
47	柁原 彩	JPN 熊本	2:43:21

2007年BMX世界選手権大会日本代表選手団

大会名 2007年BMX世界選手権大会
開催場所 カナダ・ビクトリア
大会期間 2007年7月26日～29日
派遣期間 2007年7月24日～31日
派遣選手団

団長 蒔田 一 (BMX小委員会座長)
コーチ 宮城 力
スタッフ 山田 宏也・宇都宮真紀・三瓶 廣美
須崎 祐次・松下 博美・山崎 洋平

選手 黒田 淳 (神奈川)・三浦 進 (大阪)・阪本 章史 (大阪)
三輪 郁佳 (広島)・藤沢 雄一 (岡山)・三瓶 将廣 (神奈川)
高山祐次郎 (埼玉)・山崎 洋平 (大阪)・三瓶 貴公 (神奈川)
並木 匠 (東京)・松下 翼 (神奈川)・山田 敏郎 (茨城)
野瀬 久志 (岡山)・瀬古 遥加 (三重)・佐藤 夏子 (新潟)
宇都宮真央 (東京)・山野本悠里 (東京)・藤井 和音 (愛知)
渡辺 楓 (岡山)・須崎 巧悠 (東京)・山口 大地 (新潟)
橋爪 凱 (長野)・吉井 康平 (東京)・瀬古 祐太 (三重)
吉村樹希敢 (大阪)・宇都宮真紀 (東京)



日本新記録

■チームスプリント・333.33m×3

男子ジュニア 1分02秒929 日本 (雨谷一樹、深谷知広、坂本貴史) 2007/08/04 メキシコ・アグアスカリエンテス

■スタンディングスタート・1km

男子ジュニア 1分05秒238 深谷 知広 (愛知・桜丘高校) 2007/08/07 メキシコ・アグアスカリエンテス

2007年BMX世界選手権大会

チャレンジクラスで健闘



にあうトラブルもあり、結果は残念ながら決勝、準決勝へ誰も進出できず悔しい思いをした。

しかし、チャレンジ・クラスでは、藤井和音 (GIRLS-13) が5位、瀬古遥加 (GIRLS-11) 6位、吉井康平 (クルーザー・BOYS-12) 8位と3名のキッズライダーたちが健闘し入賞を果たした。

2007年BMX世界選手権大会が7月26日から29日の4日間にわたってカナダ・ビクトリアで開催された。

BMXは来年北京オリンピックから正式種目となり、男・女ともUCI国ランキング等により参加資格が決まる。

今回の世界選手権はUCIポイント獲得のために重要な大会でチャンピオンシップス・クラスには8名がエントリーしたが、会場で自転車が盗難

来年の世界選は5月末に中国で開催される。北京オリンピックの参加資格獲得のため、更にみんなで力を合せ頑張っていきたい。(蒔田 一)

【競技結果】

2007年BMX世界選手権大会 (2007/07/26-29 カナダ・ビクトリア)

男子リト
1 BENNETT Kyle USA 34.956

2 YOUNG Khalen AUS 35.315
3 STUMPFHAUSER Randy USA 35.573
黒田 淳 JPN 神奈川 予選敗退
三浦 進 JPN 大阪 予選敗退
阪本 章史 JPN 大阪 予選敗退
山崎 洋平 JPN 大阪 予選敗退

女子リト

1 READE Shanaze GBR 39.025
2 WALKER Sarah NZL 40.027
3 HORAKOVA Jana CZE 40.968
三輪 郁佳 JPN 広島 予選敗退

男子ジュニア

1 LAPRAZ Yvan SUI 36.330
2 BRADFORD Joey USA 36.395
3 COLLINS Logan USA 36.701
藤沢 雄一 JPN 岡山 予選敗退
三瓶 将廣 JPN 神奈川 予選敗退
高山祐次郎 JPN 埼玉 1/8F 敗退

クルーザー男子ジュニア

1 ENDARA Fausto ECU 35.741
2 LAPRAZ Yvan SUI 36.596
3 SOWERS George USA 36.673
高山祐次郎 JPN 埼玉 予選敗退
三瓶 将廣 JPN 神奈川 1/4F 敗退

平成 19 年度全国高等学校総合体育大会

奈良・榛生昇陽高校が団体初優勝!

佐賀県武雄市で「この夏佐賀に君色の風が吹く」のスローガンのもと、高校生の夏の祭典インターハイが開催された。

【1kmタイムトライアル】

勝者 長島



風の影響もほとんどなく、暑さを除けば絶好のコンディションの中、タイムトライアルが開始された。出場32名(16組)中4組目に早々と10秒台を記録し、後半に控えるシード選手の好記録が期待されたが、暑さの影響が記録が思うように伸びず、15組終了時点において1分9秒171を記録した利根正明(大分:別府商業③)が暫定トップで、最終組の結果を待つ。

注目の最終組、バックスタートの長島大介(栃木:作新学院③)が1分8秒382でフィニッシュし優勝を飾り、ホームスタートの山下一輝(山口:誠英③)が0秒514及ばない1分8秒896で2位、利根が3位に入賞し競技を終了した。

【3km個人追抜競走】

勝者 相笠



団体種目に出場した選手は厳しい条件下での決勝であった。バックスタートの相

チームスプリントの勝者 岐阜第一



笠翔太(福島:白河実業③)が終始1秒以上のリードを保ち、3分34秒411の好タイムで優勝。敗れた入部正太郎(奈良:榛生昇陽③)も3分35秒561の好タイムであった。3・4位決定戦を制した窪木一茂(福島:学法石川③)が3分40秒857で3位に入賞した。

【4km団体追抜競走】

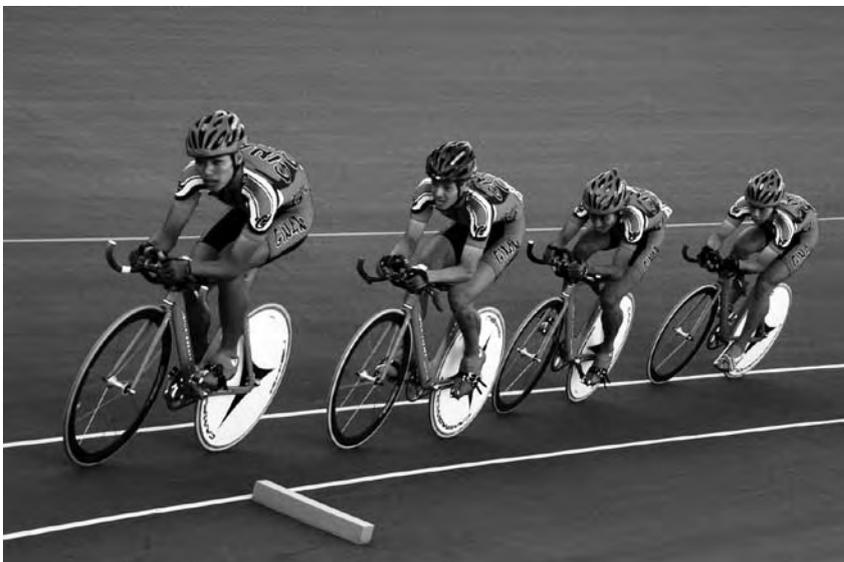
決勝は、岐南工業(岐阜)vs榛生昇陽(奈良)で行なわれた。岐南工が序盤より速いペースで周回しアドバンテージを作り、終始リードで危なげないレースに見られたが、ラスト1kmで榛生昇陽が猛追を開始し、フィニッシュの号砲はほぼ同時に鳴り響き、決勝戦に相応しい好勝負であった。岐南工業が僅差(0秒161)で榛生昇陽を凌ぎ昨年に続き優勝を飾った。3位には別府商業(大分)が追い抜き勝ちで入賞した。

【チームスプリント】

決勝は昨年度優勝の作新学院(栃木)vs岐阜第一(岐阜)で行なわれた。作新学院は主力の雨谷をジュニア世界選手権で欠きながらも予選1位通過。対する岐阜第一も僅差(0秒514)の2位で決勝へ進出した。決勝は第1走者より、岐阜第一が若干リード。作新学院の第3走者(1kmTT優勝者)が猛追するも僅差(0秒065)及ばず二連覇達成とはならず、岐阜第一が優勝を飾った。3位には相手チームの降格で朝明(三重)が入賞した。

【スクラッチ】

決勝は号砲と同時に野口正則(奈良:榛生昇陽②)が飛び出し、集団の分裂を図るも後続集団もすぐさま反応、決定的な逃げとはならなかった。レースが動いたのはラスト2km付近、集団内で様子を伺っていた選抜の覇者、小山真太郎(熊本:千原台



団体追抜の勝者 岐南工業

③)が先行する2名を単独で追走し吸収、エスケープ集団を形成した。その後、後続集団から1名の選手が飛び出しラスト2周となった。後続も先頭集団を射程距離内に置き最終スプリントに備えたが、ペースの上がない先頭集団から小山が早めのスパート、選抜に続いてこの種目優勝を飾った。2着の選手が降格のため、佐々木真(青森：八戸工③)が繰り上がって入賞、終始積極的に動いた野口が3位に入賞した。

【ポイントレース】

ポイント周回が残り3回の時点で優勝の可能性のある選手は4名いたが、最終ポイントを残した時点で、優勝は吉田隼人(奈良：榛生昇陽③)と山内康平(岐阜：岐南工業③)の2名に絞られた。海外遠征帰りで体調は万全とは言えないながらも、後半立て続けにポイントを獲得し、選抜に続いてこの種目優勝を飾った。後半はポイント獲得ならなかったが、前半の積極策が功を奏し高橋昇平(埼玉：大宮工業③)が3位に入賞した。

【4km速度競走】

決勝は12名でスタートした。前半より各選手が積極的に先頭責任を取りに動き、残り2周時点で完了者5名。その後、飯塚力也(山梨：甲府工業③)が飛び出し完了したところで最終周回に入った。飯塚は逃げ切り狙うも後続集団が最終バックで捕らえ、元砂勇雪(奈良：榛生昇陽①)が1年生ながらスプリントを制し優勝。飯塚が2位、3位には完了者上位の岡崎祥伍(岐阜：岐南工業③)が入賞した。

【ケイリン】

ペーサーの後を取り、先行する選手の後位狙った近藤龍徳(岐阜：岐阜第一②)が、ゴール前追い込み選抜に続いてこの種目優勝。小柄ながらもレースセンスが光った。4コーナーより鋭く伸びてきた新納大輝(鹿児島：鹿児島実業③)が僅差届かず2位、3位には上田隼(岐阜：岐南工業③)が入賞した。

【スプリント】

決勝は予選タイムが示す通り順当に勝ち上がり、佐々木海(宮城：仙台商業③)と加藤正法(愛知：桜丘③)の対戦となった。加藤は積極的に先行策を試みるが、直線が長い武雄バンクに苦しめられた。対する佐々木はその特性をうまく利用し落ち着いて追い込み2本連取で勝利を手にした。3位には決定戦を制した田口泰生(岐阜：岐阜第一③)が入賞した。

【ロードレース】

序盤より有力選手含む7名のエスケープ集団を形成し、一時は2分近くのアドバンテージがあり決まったかに見えたが、最終ラップに入りエスケープ集団との差は徐々に詰まり最終的には吸収された。間髪いれず補給所の上りで1名の選手がアタック、それに呼応するように吉田隼人(奈良：榛生昇陽③)、窪木一茂(福島：学法石川③)が追走し、再度エスケープ集団を形成した。逃げはゴールまで続き、ゴールスプリントを制した吉田が今インターハイ2勝目、選抜に続きロードレースの優勝を飾った。

に詰まり最終的には吸収された。間髪いれず補給所の上りで1名の選手がアタック、それに呼応するように吉田隼人(奈良：榛生昇陽③)、窪木一茂(福島：学法石川③)が追走し、再度エスケープ集団を形成した。逃げはゴールまで続き、ゴールスプリントを制した吉田が今インターハイ2勝目、選抜に続きロードレースの優勝を飾った。

【学校対抗/総括】

インターハイ開催前に九州を襲った豪雨災害が、嘘のような好天に恵まれた。短距離種目を除き、団体を含む中・長距離系種目で上位ポイントを獲得した奈良県榛生昇陽高等学校が初優勝を飾った。

地元武雄市のご協力により、空調の効いた特別観覧席の無料開放を始めとする、地元「おもてなし」の気持ちが随所に感じられた大会であった。

チームスプリントと団体追抜は新記録樹立には及ばなかったが、決勝に相応しい大接戦で会場内は大いに盛り上がった。ホーム・バックスタンド両方から見える記録の速報表示、また、単調になりがちなタイムトライアルを魅力あるものにするための様々なアイデアが実現された大会であった。

大会は選手と役員二者で成立するものではなく、観客を楽しませることができて、初めて「スポーツ」である。メジャー競技にあって自転車競技にないものを1つずつクリアしていけば、自転車競技の魅力を一人でも多くの人に発信できるのではないかと。そのような意味でも、多くの新しい試みは観客に印象付いたのではないかと。大会期間中は大きな事故も無く無事終了した。地元を中心とした関係各位に心から感謝を申し上げます。

(総務委員 中田 将次)

【競技結果】

平成 19 年度全国高等学校総合体育大会 (2007/08/08-12 佐賀・武雄)

スプリント

- 1 佐々木 海 宮城 仙台商業高校
- 2 加藤 正法 愛知 桜丘高校
- 3 田口 泰生 岐阜 岐阜第一高校
- 4 溝口 政宗 兵庫 明石商業高校
- 5 丸山 昌茂 新潟 吉田高校
- 6 後藤 祐貴 兵庫 三田学園高校

1kmタイムトライアル

- 1 長島 大介 栃木 作新学院 1:08.382
- 2 山下 一輝 山口 誠英高校 1:08.896
- 3 利根 正明 大分 別府商校 1:09.171
- 4 魚屋 周成 大分 日出陽谷 1:09.666
- 5 亀川 宗史 兵庫 三田学園 1:09.884
- 6 柿澤 大貴 長野 岡谷工校 1:10.045

ケイリン

- 1 近藤 龍徳 岐阜 岐阜第一高校
- 2 新納 大輝 鹿児島 鹿児島実業高校
- 3 上田 隼 岐阜 岐南工業高校

- 4 前川 剛大 沖縄 北谷高校
- 5 名川 豊 福岡 豊国学園高校
- 6 野口 大誠 熊本 九州学院高校

3km 個人追抜競走

- 1 相笠 翔太 福島 白河実業 3:34.411
- 2 入部正太郎 奈良 榛生昇陽 3:35.561
- 3 窪木 一茂 福島 学法石川 3:40.857
- 4 岩重 俊彦 熊本 開新高校 3:46.896
- 5 植田 知英 岡山 岡山高 3:45.307
- 6 坂本 健介 青森 八戸工高 3:45.576

4km 速度競走

- 1 元砂 勇雪 奈良 榛生昇陽高校
- 2 飯塚 力也 山梨 甲府工業高校
- 3 岡崎 祥伍 岐阜 岐南工業高校
- 4 竹村 勇祐 秋田 大曲農業高校
- 5 風神 有吾 和歌山 和歌山北高校
- 6 田澤 真明 秋田 六郷高校

スクラッチ (8km)

- 1 小山真太郎 熊本 千原台高等学校
- 2 佐々木 真 青森 八戸工業高校
- 3 野口 正則 奈良 榛生昇陽高校
- 4 菅尾 潤弥 和歌山 和歌山北高校
- 5 平井 匠 栃木 作新学院高校
- 6 和田 拓磨 茨城 取手第一高校

ポイントレース (24km)

- 1 吉田 隼人 奈良 榛生昇陽高校 22p
- 2 山内 康平 岐阜 岐南工業高校 15p
- 3 高橋 昇平 埼玉 大宮工業高校 11p
- 4 松下 晃太 山梨 石和高校 10p
- 5 青山 裕矢 香川 石田高校 8p
- 6 澤田 賢匠 京都 鴨沂高校 8p

チームスプリント

- 1 岐阜第一 田口・森・近藤 1:19.277
- 2 作新学院 長島・磯田・鈴木 1:19.342
- 3 朝明高校 伊藤・山口・若松 1:21.313
- 4 千原台高 小山・古庄・田中 (降格) 1:20.055
- 5 鹿児島実 新納・豊住・有川 1:20.616
- 6 桜丘高校 川口・加藤・神部 1:21.471

4km 団体追抜競走

- 1 岐南工高 岡崎・高橋・加藤・吉田茂 4:31.515
- 2 榛生昇陽 吉田隼・入部・野口・元砂 4:31.676
- 3 別府商高 利根・田中・吉岡・上田 -
- 4 八戸工高 坂本・板橋・佐々木・新山 DNF
- 5 和歌山北 菅尾・楠本・森・風神 4:39.381
- 6 学法石川 窪木・佐藤・矢吹・瀬谷 4:41.120

個人ロードレース (107.1km)

- 1 吉田 隼人 奈良 榛生昇陽高 2:48:02
- 2 清水 一弘 富山 氷見高校 2:48:03
- 3 本馬 陵 福島 平工業高校 2:48:03
- 4 窪木 一茂 福島 学法石川高 2:48:03
- 5 青山 裕矢 香川 石田高校 2:48:03
- 6 逢坂 弘紀 青森 青森山田高 2:48:05
- 7 大中 拓磨 京都 北桑田高校 2:49:45
- 8 佐々木 龍 神奈川 横浜高校 2:49:45
- 9 利根 正明 大分 別府商業高 2:49:46
- 10 丹後 彰馬 広島 崇徳高校 2:49:48

学校対抗総合順位

- 1 榛生昇陽高校 奈良 48p
- 2 岐南工業高校 岐阜 33p
- 3 岐阜第一高校 岐阜 25p
- 4 作新学院高校 栃木 21p
- 5 千原台高校 熊本 18p
- 6 八戸工業高校 青森 15p

ツール・ド・ラビティビ

第5・8ステージでステージ優勝を飾る!!



今年のツール・ド・ラビティビは、海外派遣事業として10回目を迎え、節目の年を迎えると共に結果を求められる大会ではなかったかと思う。参加選手は、高体連チームも含め2チーム。悲願の優勝を目標に掲げ、さらに監督としてJCF強化コーチの三浦恭資氏を迎え、万全の体制でレースに臨む事となった。

7月16日(月) 晴れ

プロローグ Val-d'Or (400m)

コースは2レーン造られ、1対1での勝負形式で行われた。10番目スタートで相手はアメリカチームだった。

7月17日(火) 晴れ一時雷雨

STAGE 1 Rouyn~Val-d'Or(114.5km)

アタックの掛けあい、ハイスピードのレース展開となった。残り20km地点で集団の前方で落車があり、レースが動いた。幸い日本選手は、落車に巻き込まれる事はなく、集団から遅れる者はいなかった。その後も次々とアタックをかけるも決まらず、集団ゴールとなった。

STAGE 2 Val-d'Or チームTT (8.6km)

夕方からの激しい雷雨で、最悪のコンディションでのレースかと思われたが、日本チームのスタート直前に小雨となった。個人TT同様、外国人選手にパワー・スピードの違いを見せつけられる結果となり、課題の残るレースとなった。

7月18日(水) 晴れ一時雨

STAGE 3 Senneterre~Val-d'Or (94.7km)

マークする選手の番号を書いたテープをステムに貼らせ、動きに注意するように指示しスタート地点に着かせた。選手たちも余裕が感じられるようになってきた。

レース途中、野中がパンクし集団から離れるも、サポートカーを上手く利用しながら少しづつ上がっていき無事復帰を果たした。

レースも中盤に差し掛かった頃、高体連チームの野口を含む12名の選手が集団を飛び出し、最大30秒の差をつける展開となった。その後も第2集団は動くことなく、差は少し縮まるもの12名で逃げきり野口が4位で入賞。ゴール後、全員で喜び健闘をたたえ合うと共に自分もできるという手応えを感じ合えた瞬間でもあった。

7月19日(木) 晴れ

STAGE 4 Val-d'Or 個人TT (14.5km)

昔、金の採掘場であった地下をスタート地点とし、地上に出てからバルドールの町を周回するコース。個人総合成績の下位の選手からスタートし、最後の選手がスタートするまで4時間もタイム差があり、長期戦を余技なくされスタッフも大変であった。

地下は暗く寒い。そんな中で選手達は、自分のスタート時間まで主催者が用意してくれたエアロバイクやローラーを使ってアップし順番を待った。

スタート直後、最大17%の急勾配が待っており、しかも走路が地下水で濡れ滑りやすく、スタートのテクニクも要求された。日本選手の中には、暗闇の中で迷ってしまい自転車を下りて引き返すタイムロスする者もいた。

結果は、窪木が健闘するものの、プロローグ同様外国選手に力の差を見せつけられ、走力、フォーム、コース取りなど課題の残るレースとなった。

STAGE 5 Amos クリテリウム (63km)

各チーム、アタックを繰り返す中、日本チームも集団前方に位置取り、チャンスを待つ。残り15周回で入部・吉田がアタックに乗り、11名の先頭集団を形成した。結果、吉田がゴール勝負に競り勝ち、日本チ

区間優勝の吉田



ム初のステージ優勝を飾り、入部も最後粘り9位に入る健闘を見せた。表彰式で日の丸が揚がり、君が代が流れたときには、日本チーム全員が喜び、感動的なものとなった。

7月20日(金) 晴れ

STAGE 6 Val-d'Or (80km)

今日も積極的な走りを見せ、昨日に続く上位入賞かと思われたが、結局逃げが決まらず集団ゴールとなった。ゴール前、最終コーナーを野中が先頭で通過し、見せ場を作ったが失速し集団に飲み込まれてしまった。野中の後方に位置し、最後まで粘りを見せた青山が最高位だった。

7月21日(土) 晴れ

STAGE 7 Preissac~Val-d'Or (94.4km)

ブレイザックを出発し、バルドールの町を3周するレース。レースも終盤に入り、選手達も慣れ、随分頼もしくなってきたように思える。

今日も日本チームは積極的なレースを展開するが、なかなか逃げが決まらず、勝負は最後の周回コースに持ち込まれた。途中200ドルの賞金が懸かった周回で、入部が引っ張り窪木が取りに行くが、僅かの差で逃した。

レースは最終周回、堀内と青山が飛び出し、あわや逃げ切るかと思われたが、惜しくも集団に追いつかれ入賞を逃した。

7月22日(日) 晴れ

STAGE 8 Val-d'Or クリテリウム (55.8km)

大会最終日、バルドールのメインストリートで周回するレース。沢山の観客が詰めかけ、盛り上がりを見せていた。レースでは、前半戦の戦いとは別人のような動きを見せ堂々とした姿が頼もしく感じ、成長を伺わせた。ラスト3周を残した所で、一瞬の隙をつき野中がアタック。続いて窪木もアタックをかけ、10秒遅れで野中を追走した。幸い日本チームは総合8位だったため、上位選手を有する有力チームは動かず、あつという間に25秒の差がつき絶好の展開となった。途中、窪木が野中に追いつき2人で逃げるが残り1周で野中が遅れだし、窪木の独走となった。窪木は最後、集団に詰められながらも必死で逃げ、大観衆の見守る中一番でゴールを切った。その瞬間、場内『ジャパン』のコールが鳴り響き称賛の嵐となった。今大会2勝目の快挙であった。

今回のツール・ド・ラビティビは大自然に恵まれた環境とスムーズな大会運営、地元ボランティアの人たちの協力により、すばらしい大会となりました。最初、慣れない環境に戸惑い外国選手に圧倒されていた日本選手も1ステージごとに本来持つ力を発揮し出し、環境やレースに対する適応力など能力の高さに驚かされた。中でも圧巻は、STAGE 5とSTAGE 8のステージ優勝。この快挙は、選手達はもちろんスタッフを含めた全員の勝利であり、日本チームの可能性を証明するものだと思う。

次に今後の課題として見てみると、走力(特にTT)は勿論のことレースの戦術を徹底的に学習させる必要があると考えられる。この問題を解決するには、事前に合宿を組み実践練習を行うことが必須であり、その中で選手にチームとしての役割を理解させる事ができれば本番のレースではもっと動けるようになり、さらに世界との差が縮まっていくのではないかなと思う。

(堀 芳彰)

※競技結果は右ページを参照下さい。

競技大会 結果

大会名、チーム名等については略して記載

第6回全日本実業団サイクルロードレース in 石川 (2007/07/15 福島・石川)

BR-1 (102.2km)

1	田代 恭崇	JPCA プリヂェストン	2:41:44
2	真鍋 和幸	香川 NIPPO	2:41:45
3	阿部 良之	JPCA シマノレーシング	2:41:46
4	増田 成幸	千葉 チームミヤ	2:41:47
5	狩野 智也	JPCA シマノレーシング	2:41:47
6	山本 幸平	北海道 ダイハツ	2:41:47
7	鎌田 圭介	東京 パールイズミ	2:41:48
8	三瀧 光誠	山形 プリヂェストン	2:42:12
9	飯野 嘉則	東京 パールイズミ	2:42:12
10	森山 大知	神奈川 NIPPO	2:42:23

BR-2 (68.0km)

1	薦田 義明	埼玉 プリヂェストン	1:51:53
2	大塚 潤	静岡 CLUB	1:51:53
3	伊藤 敦弘	宮城 飛プロ	1:51:53
4	真田 冬樹	静岡 飛プロ	1:51:56
5	佐藤 利英	宮城 ベルエキップ	1:51:56
6	宗吉 貞幸	千葉 ムッティ	1:51:57
7	阿部 健弥	神奈川 チームスキャップ	1:51:57
8	島田 暁生	東京 チームオーベスト	1:51:57
9	細木 郁生	東京 なるしま	1:51:58
10	河村 茂夫	山口 Esperance	1:51:58

BR-3 (54.4km)

1	伊藤 邦雄	千葉 spacebikes	1:29:56
2	海口 秀幸	新潟 PIAA	1:29:56
3	中尾 峻	東京 チームオーベスト	1:29:56
4	木下 智裕	神奈川 Comrade	1:29:57
5	土屋 敬一	茨城 FORZA	1:29:57
6	水野 貴行	愛知 チームGiro	1:29:58
7	上原 峻	神奈川 チームスキャップ	1:30:01
8	中原 茂樹	千葉 ムッティ	1:30:02
9	田崎 友康	新潟 PIAA	1:30:03
10	清水 太己	埼玉 川口市車連	1:30:03

女子 (47.8km)

1	佐藤紗矢香	北海道 bicinoko	1:35:53
2	戸井麻里子	埼玉 なるしま	1:35:54
3	堀内美八子	福井 BALBA	1:35:59
4	篠崎奈緒子	埼玉 ARAI	1:35:59
5	小池摩知子	福井 BALBA	1:36:04
6	藤原 志帆	岩手 紫波総合高	1:39:58
7	石井 麻実	東京 なるしま	1:40:56
8	高島真希子	東京 チームオーベスト	1:41:29
9	尾形 智子	福島 -	1:41:35
10	久保 浩子	岩手 紫波総合高	1:43:22

ジュニア (61.4km)

1	相笠 翔太	福島 白河実業高	1:49:26
2	中田 匠	岩手 岩手県車連	1:49:27
3	本馬 陵	福島 平工業高校	1:49:27
4	藤村 純平	岩手 岩手県車連	1:49:28

5	小黒 祐也	新潟 吉田高校	1:49:28
6	瀬谷 浩貴	福島 学法石川高	1:49:29
7	猪狩 昌悟	福島 平工業高校	1:49:33
8	渡邊 正人	福島 平工業高校	1:49:34
9	清水 一弘	富山 水見高校	1:49:35
10	千葉 大輔	岩手 岩手県車連	1:53:01

2007 ツール・ド・ラビティビ (2007/07/16-22 カナダ・ケベック)

個人総合成績

1	PHINNEY T.	USA National	11:30:05
2	DAVID Tom	NZL National	11:30:09
3	BLAIS-DUFOUR G.	CAN Quebec	11:30:15
19	窪木 一茂	J.National 福島	11:31:55
35	吉田 隼人	J.National 奈良	11:32:29
40	入部正太郎	J.National 奈良	11:32:49
48	堀内 俊介	J.National 神奈川	11:33:14
63	青山 裕矢	J.National 香川	11:34:31
65	野口 正則	J.HighSchool 奈良	11:34:42
66	清水 峻	J.HighSchool 大分	11:34:47
68	野中 竜馬	J.National 広島	11:34:52
74	小巻 和仁	J.HighSchool 埼玉	11:36:07
83	平井 栄一	J.HighSchool 神奈川	11:40:38
88	魚屋 周成	J.HighSchool 大分	11:44:01
136	鳥海 智大	J.HighSchool 東京	12:40:48

団体総合

1	USA National	34:08:50
2	Nouvelle-Zelande National	34:09:16
3	Quebec	34:09:55
8	Japon National	34:13:22
14	Japon High School	34:19:51

MTB ジャパンシリーズ J 白馬さのさか (UCI-3) XCO#5 (2007/07/29 長野・白馬)

男子クロスカトリ (31.2km)

1	竹谷 賢二	千葉 スパイクス	1:57:00.81
2	山本 幸平	長野 プリヂェストン	1:58:09.40
3	武井 亨介	茨城 FORZA	2:00:00.30
4	小野寺 健	京都 SUBARU	2:00:02.46
5	千田 尚孝	愛知 KHS	2:02:03.60
6	山本 和弘	東京 キャノンデール	2:05:01.12
7	松本 駿	長野 TREK	2:05:51.91
8	江下健太郎	長野 エムックス	2:06:20.68
9	後藤 清作	島根 GIANT	2:10:15.81
10	山田大五郎	福岡 福砂屋	2:10:57.34

女子クロスカトリ (20.8km)

1	中込由香里	長野 SY-Nak	1:38:30.67
2	田近 郁美	岐阜 GodHill	1:44:30.01
3	笹本 みぎ	山梨 splash	1:52:10.29
4	深井 薫	大阪 BMC	1:56:11.53
5	山本 佳苗	岡山 BMC	2:03:24.50
6	渡辺 キャリー	長野 キャノンデール	2:06:48.23
7	光田 真基	三重 KHS/ 重力技	-1lap
8	丸山八智代	長野	-2laps

MTB ジャパンシリーズ J2 八海山 DHI (2007/07/29 新潟・八海山)

DHI 男子エリート (2.8km)

1	安達 靖	愛知 Ikuzawa	3:52.920
2	井手川直樹	埼玉 G-Cross	4:07.433
3	柴田 幸治	神奈川 A&F	4:09.905
4	赤堀 吉功	岐阜 Velo	4:10.109
5	門脇 佑仁	新潟 Seo Cycle	4:13.550

6	有村 俊彦	神奈川 重力技研	4:15.873
7	西村 智彦	大阪 シバドリキョウ	4:20.186
8	波多野真弘	愛知 NCFR	4:25.605
9	荒金 知史	大阪 シバドリキョウ	4:25.677
10	和賀 誠	静岡 Dirt Dirt	4:25.796

DHI 女子エリート (2.8km)

1	七山 仁美	富山 M-2MAD	5:08.194
2	菅原 亮香	岩手 AKI	5:21.706

第48回全日本学生選手権自転車競技大会 (2007/07/28-29 福島・泉崎)

男子1kmタイムトライアル

1	土屋 壮登	埼玉 順天堂大	1:06.267
2	佐藤 博紀	岩手 日本大学	1:08.986
3	石川 真浩	東京 名古屋産	1:09.606
4	奥原 亨	神奈川 中央大学	1:09.640
5	光富 雄也	千葉 法政大学	1:10.027
6	内田 晃弘	静岡 順天堂大	1:10.307

男子ケリソ

1	櫻井 正孝	宮城 東北学院大学	
2	高橋 韻旨	岐阜 法政大学	
3	東矢 昇太	熊本 中央大学	
4	中村 健志	熊本 日本大学	
5	市山 研	神奈川 明治大学	
6	鬼塚 智裕	熊本 中央大学	

男子4km個人追抜競走

1	川西 貴之	岐阜 日本大学	4:50.883
2	穂苅 大地	新潟 法政大学	4:56.050
3	小豆畑都也	福島 日本大学	4:55.362
4	石田 正樹	青森 中央大学	5:06.826
5	根本 哲吏	秋田 明治大学	4:55.322
6	岸本 直樹	岐阜 順天堂大	4:56.806

女子500mタイムトライアル

1	沼部早紀子	栃木 順天堂大学	38.172
2	佃 咲江	北海道 北海商科大	38.312
3	栗原 瞳	埼玉 順天堂大学	39.006
4	福島 麻実	熊本 順天堂大学	39.811
5	石井 寛子	埼玉 明治大学	40.255
6	牛島 愛	熊本 日本体育大	40.416

女子3km個人追抜競走

1	石井 寛子	埼玉 明治大学	4:10.077
2	井上 玲美	東京 法政大学	4:11.334
3	小淵 千恵	群馬 順天堂大	4:18.920
4	平舘 美輝	岩手 法政大学	4:23.128
5	手柴 敦子	沖縄 名桜大学	4:23.393
6	森 智恵美	京都 順天堂大	4:28.656

女子ポイントレース (16km)

1	石井 寛子	埼玉 明治大学	40p
2	井上 玲美	東京 法政大学	14p
3	手柴 敦子	沖縄 名桜大学	13p
4	小淵 千恵	群馬 順天堂大学	13p
5	森 智恵美	京都 順天堂大学	8p

スプリント、タンDEMスプリントは悪天候のため途中中止、マディソンは全て中止。



2007年MTBアジア選手権日本代表選手団

大会名	2007年マウンテンバイクアジア選手権大会
開催場所	中国・江蘇省・蘇州市
大会期間	2007年8月2日～6日
派遣期間	2007年7月31日～8月6日
派遣選手団	
監督	三浦 恭資 (JCF強化コーチ)
コーチ	西井 匠 (JCF強化スタッフ)
メカニック	仁木 康夫 (JCF強化スタッフ) 白井 三善 (JCF強化スタッフ)
選手	
XCO男子	辻浦 圭一 (奈良・プリヂストンアンカー) 竹谷 賢二 (千葉・SPECIALIZED) 野口 忍 (京都・TREK) 山本 幸平 (北海道・プリヂストンアンカー) 白石 真悟 (大阪・シマノドリンキング) 小野寺 健 (北海道・SUBARU GARYFISHER)
XCO女子	片山 梨絵 (神奈川・TREK) 真下 正美 (神奈川・GLOBAL RACING) 矢沢みつみ (山梨・SY-Nak SPECIALIZED)
DHI男子	井手川直樹 (広島・G Cross HONDA)
DHI女子	末政 実緒 (兵庫・FANFANCY/INTENSE)

ACCトラック アジアカップ タイラウンド 日本代表選手団

大会名	ACCトラック アジアカップ 2007 タイラウンド
開催場所	タイ・バンコク
大会期間	2007年8月11日～12日
派遣期間	2007年8月8日～13日
派遣選手団	
監督	阿部 良二 (JCF強化コーチ)
メカニック	鬼原 積 (JCF強化スタッフ)
総務	山田 克彦 (JCF選手強化部)
選手	伏見 俊昭 (JPCA・福島)・及川 裕奨 (JPCA・岩手) 石橋慎太郎 (JPCA・静岡)・田中 晴基 (JPCA・千葉) 飯島 誠 (JPCA・プリヂストンアンカー) 角 令央奈 (兵庫・鹿屋体育大学) 石井 寛子 (埼玉・明治大学) 沼部早紀子 (栃木・順天堂大学)

2007年U23ヨーロッパ遠征派遣日本代表選手団

遠征先	フランス/イタリア
派遣期間	2007年8月5日～18日
派遣選手団	
監督	大門 宏 (ロード競技部会部会員)
メカニック	柿木 孝之 (ロード競技部会支援スタッフ)
マッサー	現地スタッフ
選手	畑中 勇介 (東京・プリヂストンアンカー) 大庭 伸也 (宮城・日本大学) 島田 真琴 (東京・法政大学) 村上 純平 (山形・鹿屋体育大学) 初山 翔 (神奈川・キャンデールディアドラ) 伊藤 雅和 (鹿児島・鹿屋体育大学)

加盟団体事務局住所変更

長野県自転車競技連盟
〒390-0221 長野県松本市里山辺 3206-6
浅香英二 様方 TEL & FAX: 0263-34-1402

連盟の動き (7月中旬～8月中旬)

7月10日	平成19年度第3回広報部会	於:東京・日本自転車会館3号館3階
16日	トラック強化合宿 (ジュニア世界選直前合宿)	於:静岡・日本CSC (~29日)
24日	2007年ツール・ド・ラビティビ日代表選手団出発	於:カナダ・ラビティビ 帰国→7/31
24日	2007年BMX世界選手権代表選手団出発	於:カナダ・ピクトリア 帰国→7/31
29日	2007年ジュニア世界選手権代表選手団出発	於:メキシコ 帰国→トラック8/11・ロード8/15
31日	2007年MTBアジア選手権代表選手団出発	於:中国・江蘇省 帰国→8/6
8月5日	2007年ロードU23ヨーロッパ遠征日本代表選手団	於:フランス・イタリア 帰国→8/18
9日	トラックアジアカップ・タイラウンド代表選手団出発	於:タイ・バンコク 帰国→8/13

< JCF オフィシャル・スポンサー >



< JCF オフィシャル・サプライヤー >



シクリスムエコー No.141 2007年8月号

発行/財団法人日本自転車競技連盟

発行人/岩楯昭一

編集人/加藤 昭

編集事務局/財団法人日本自転車競技連盟事務局

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-9-3 日本自転車会館内

TEL03-3582-3713 FAX03-5561-0508 <http://www.jcf.or.jp/>